

C-L Hanonの意図したもの ～ Hanonはなぜ「ハノン」を書いたか～

What C- L. Hanon Intended

(2007年3月31日受理)

小野文子

Ayako Ono

Key words : Hanon, ピアノ, 練習曲, テクニック

ピアノの教則本「60の練習曲によるヴィルトゥオーゾ・ピアニストVirtuoso Pianist In 60 Exercises」は1873年に出版され、公式にパリ音楽院で用いられた。

その後すぐに英語版も出版され、世界中に広まり、こんにちのピアノ教師にとって標準的な教材の一つとなっている。では、なぜそのように世界中で使われるようになっていったのであろうか。

はじめに

Charles-Louis Hanonは1819年にフランス共和国ダンケルク近郊で生まれ、1900年に亡くなったフランスの作曲家であり、音楽教育における著述家である。敬虔なカトリックの家庭に生まれ、地方のオルガニストに学び、歌やピアノの個人教授や合唱指揮者やオルガニストをしながら、教会用の賛美歌教育用のさまざまな作品を出版している。

日本では英語風もしくはドイツ語風の「ハノン」の呼び名で有名であるHanonのピアノの教則本「60の練習曲によるヴィルトゥオーゾ・ピアニストVirtuoso Pianist In 60 Exercises」は有名で、こんにちのピアノ教師にとって標準的な教材の一つとなっている。ピアノ音楽の領域で「ハノン」という場合にはこの曲集を指す。これらの曲はフィンガートレーニングを行なうためのものであり、楽曲として成り立っている他の練習曲とは性格を異にする。

1 「Virtuoso Pianist In 60 Exercises」

なぜ「ハノンVirtuoso Pianist In 60 Exercises」が

世界中で使われるようになったのであろうか。

それまでの教則本には、クラマー＝ビューロー、ムツィオ・クレメンティ、イグナーツ・モシェレス、カール・ツェルニーなどがある。これらは、L.v. ベートーヴェン、F. ショパン、F. リストなどの作曲家の「曲」を演奏する際の、演奏技術を習得する過程としての教則本であった。

しかし、Hanonが意図したものは、「テクニック」そのものに焦点を当てることであった。「Virtuoso Pianist In 60 Exercises」はピアノ学習者にとってそれまでなかった、組織的に順序立てられた「テクニック（メカニック）」習得の教則本であり、大変理解しやすかったことがその理由である。

「ハノンVirtuoso Pianist In 60 Exercises」の序文には、

- ・「左手が右手と同じように、5本の指がすべて均等に自由になること」
- ・「左手も右手も同じようにすべての指を平均して訓練することが、ピアノのために書かれたあらゆる作曲家のどのような曲においても、自由に弾きこなすことが可能である」

として、Hanonはテクニック面にスポットを当てた教則

本を生み出した。

2 「ハノンVirtuoso Pianist In 60 Exercises」 に書かれている目的と内容

第1部

「どの指も、すばやく動き、独立した強いタッチと粒をそろえるための予備練習」

固定したポジションで、すべての指を均等化・独立させる訓練である。

第2部の導入のため、第1指（親指）移動の練習を含む。

第2部

「より高度な練習のための準備」

スケールとアルペジオを弾く際に重要な、1指（親指）を中心とした手のポジション移動の技術を段階的に学ぶよう構成されている。

5本の指を開く練習を含む。

第3部

「最高のテクニックを得るための練習」

反復音・トリル・オクターヴ・トレモロ等のさまざまなテクニックの練習である。

このように考察すると、Hanonが意図したことは、テクニック面のみを取り出した教則本であることが明確である。

時折、「ハノンVirtuoso Pianist In 60 Exercises」はおもしろくないので弾いていない、という話を聞くが、「ハノンVirtuoso Pianist In 60 Exercises」に限らず練習曲というものを全く弾かないで、好きな曲のみを何年間も練習している学習者は、必ずと言っていいほど技術的な応用が利かないが故に、1曲を仕上げるために毎回膨大な時間をかけなければならない。すなわち、スケールやアルペジオなどの正しい奏法を身に付けてることにより、どれだけの時間を節約できるか、ということになる。

「ハノンVirtuoso Pianist In 60 Exercises」に書かれていることを正確に行っていけば、メカニック面においては上達する。しかし、それだけでいいのであろうか。Hanonの意図したことは別のところにあるのでないだろうか。テクニック面を取り出した教則本を、いかに

さまざまな曲に結びつけることが出来るのかが、最終的にHanonが考えていたことである。それは、Hanonがピアノの個人教授をしながら、「ハノンVirtuoso Pianist In 60 Exercises」を作曲したことがその理由である。曲を弾くためには各々の指が独立していること・テクニックの必要性、この2点をを十分感じていたからである。「ハノンVirtuoso Pianist In 60 Exercises」だけを流暢に演奏できても、「ハノンVirtuoso Pianist In 60 Exercises」で身に付けたテクニックを活かして、ひとつの曲が音楽として素晴らしい演奏にならなければ、何の意味も持たないのである。

3 「ハノンVirtuoso Pianist In 60 Exercises」 出版社による変奏練習の違い

同じ1番であっても、いろいろなリズム練習などができるが、出版社によりテクニックにおける到達目標と難易度が異なることが解る。

国内で出版されている「ハノンVirtuoso Pianist In 60 Exercises」1番における変奏練習¹⁾

1番の変奏の例

リズムの勉強と指の使い方、手首をやわらかくするために、どの曲も次の例のように変化させてひくのもよい方法です。

The image displays 22 variations of a rhythmic exercise, numbered 1 through 22. Each variation is written on a single staff in treble clef. The variations are as follows:

- 1: 2/4 time, quarter notes with accents.
- 2: 2/4 time, quarter notes with accents.
- 3: 6/8 time, quarter notes.
- 4: 6/8 time, quarter notes.
- 5: 6/8 time, quarter notes.
- 6: 6/8 time, quarter notes.
- 7: 3/4 time, quarter notes.
- 8: 3/4 time, quarter notes.
- 9: 2/4 time, quarter notes with triplets.
- 10: 2/4 time, quarter notes with triplets.
- 11: 2/4 time, quarter notes with triplets.
- 12: 2/4 time, quarter notes with triplets.
- 13: Common time (C), quarter notes.
- 14: Common time (C), quarter notes.
- 15: 6/8 time, quarter notes with accents.
- 16: 2/4 time, quarter notes with accents.
- 17: 2/4 time, quarter notes with accents.
- 18: 2/4 time, quarter notes with accents.
- 19: 2/4 time, quarter notes with accents.
- 20: 2/4 time, quarter notes with accents.
- 21: 2/4 time, quarter notes with accents.
- 22: Common time (C), quarter notes with accents.

Peters版「ハノンVirtuoso Pianist In 60 Exercises」1番における変奏練習²⁾

Übungs-Varianten zu N° 1

1

2

3 In Sexten oder

4

5

abwärts

6

abwärts rechts und links die Rhythmen tauschen.

mf Auch mit gekreuzten Händen zu üben

7

und ebenso vertauschen rechts die Vergrößerung links die Variante in Zweiunddreißigstel

1. Fall od. portato
Gegenbewegung

8

Mit großer runder Bewegung im Ablösen der Hände!

9 Sehr schnell

10

Auch in diesem Rhythmus!

und und

Anmerkung: Ganztonleiter (siehe Seite 54)

11

4 Hanonが意図したこと

「ハノンVirtuoso Pianist In 60 Exercises」には、左右の手ならびに、5本の指の独立・均等・素早い動き・力強さを身に付けるための課題が並んでいる。これらの課題を正しくこなすことにより、さまざまなテクニックを得ることが可能となる。そして、これらの練習により訓練された指・テクニックは、より豊かな音楽表現を可能にすることが出来る。

Peters版「ハノンVirtuoso Pianist In 60 Exercises」には、これらの課題を強化するための変奏練習が目的を持って譜例として示されている。それぞれの変奏のメカニック訓練がどのような音楽表現に繋がるかを意識する逆転的な発想を、Hanonは意識していたと感じる。

国内で出版されている「ハノンVirtuoso Pianist In 60 Exercises」においては、譜面上においてはさほど複雑ではないため、いろいろな視点を同時に意識したり確認する必要がある。常にPeters版「ハノンVirtuoso Pianist In 60 Exercises」の存在を意識し、練習法・変奏法を選択することが重要な使い方である。

おわりに

あまりにも有名なHanonの「ハノンVirtuoso Pianist In 60 Exercises」。今回Peters版の「ハノンVirtuoso Pianist In 60 Exercises」を発見したことから、この教本の魅力を再確認することが出来た。そこには、国内で出版されている「ハノンVirtuoso Pianist In 60 Exercises」には譜例として紹介されていない高いレベルの変奏例が存在していた。

自由な表現のための自在に動く指を生み出すためには、系統的な訓練が不可欠である。F.Chopinのエチュードも、その美しさを表現しようとするれば、メカニックな問題解決のための練習をする必要がある。

Hanonは、メカニックな訓練が、どのような音楽表現に繋がるかを意識し、さまざまなテクニックの変奏の練習を行うことで、より複雑な奥行きのあるテクニックを身に付けることを目指した。すなわち、Hanonは直ちに楽曲の自由な表現のためのアプローチが行えるよう、「ハノン Virtuoso Pianist In 60 Exercises」を作曲した

のである。

学習者は、ハノンが提案するピアノテクニックがどのようなものであるかということを理解し、目的意識を持って音楽的に「ハノン Virtuoso Pianist In 60 Exercises」を学習することが重要である。

参 考 文 献

- 1) 全音楽譜出版社「HANON」全訳ピアノ教本
- 2) EDITION PETERS「HANON」Der Klavier-Virtuose